

大分県長期漁海況予報

[平成 24(2012)年 1 月～8 月までの海水温・漁模様の見通し]



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 23 年 9～12 月>

■黒潮

都井岬では 9 月から 10 月中旬まで「やや離岸」、10 月中旬から 11 月初旬は「かなり離岸」、11 月初旬以降は「著しく離岸」で推移しました。足摺岬では 9 月から 10 月中旬まで「接岸」、10 月中旬から 11 月中旬にかけて「やや離岸」、11 月中旬以降は「かなり離岸」で推移しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、概ね「平年並み」から「やや高め」で推移しました。9 月と 10 月は「平年並み」、11 月と 12 月は「やや高め」でした(図2)。

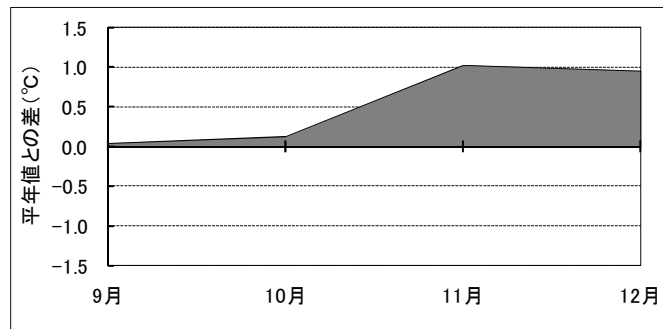


図2 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、概ね「平年並み」で推移しました。9 月は「やや高め」、10 月から 12 月は「平年並み」でした(図3)。

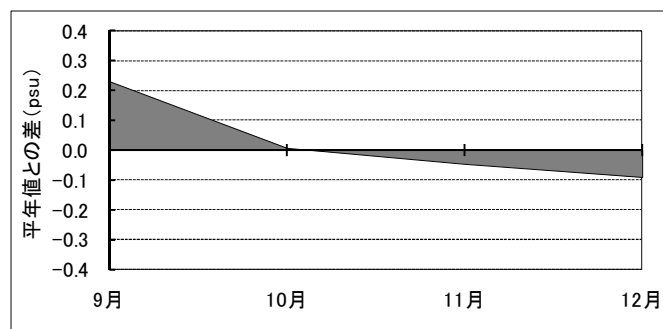


図3 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し＜平成 24 年 1～8 月＞

■黒潮

黒潮は、都井岬沖では、3月までは小蛇行が持続するため離岸傾向で推移する。3月～4月に小蛇行が東進し、4月以降は接岸傾向となるでしょう。足摺岬沖～室戸岬沖では、12月後半～1月前半に小蛇行の一部が東進するのに伴い離岸傾向となり、3月～4月に都井岬沖からの小蛇行の東進に伴い離岸傾向になるでしょう(図4)。

■沿岸水温

「平年並み」から「低め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成 23 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2011)に従いました。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられるため、平成23年12月22日発表の福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では、1～3月の平均気温は「低め40%、平年並み40%、高め20%」と予測していることから、そのように予測しました。

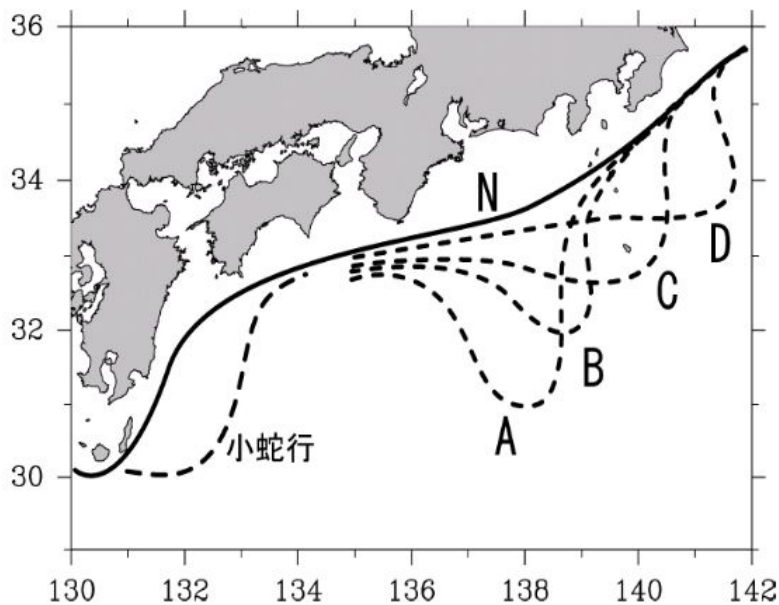


図4 黒潮流型の分類

※上図は平成 23 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

2011年8～12月の漁況経過

2011年8～12月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は、8月に1,029.2トン、9月に7.5トン、10月に0.3トン、11月に0.4トン、12月には54.0トンの計1,091.3トンでした。前年比31119%、(用語解説①) 平年比85%と、前年を大きく上回り、平年を下回っていました。漁獲の主体は、被鱗体長13～16cm前後の0歳魚(2011年級群)でした。

近隣海域(用語解説②)では宮崎県(まき網)と高知県(まき網・定置網)で前年を上回る漁でした。また、愛媛県(まき網)については2011年8月から11月の間は水揚げがありませんでした。

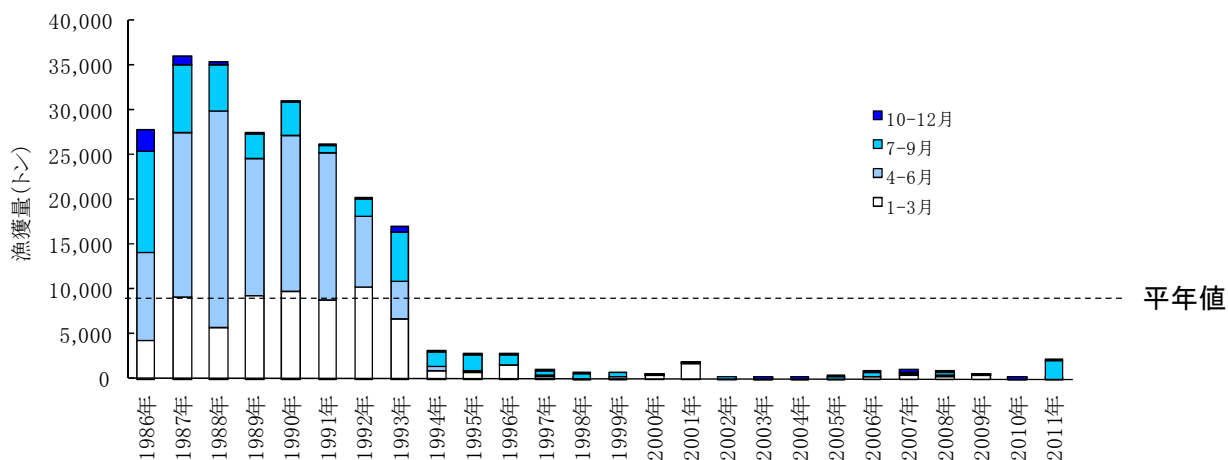


図5 マイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成24年1～8月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は依然として低水準ですが、前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

1月は被鱗体長(用語解説③)19cm前後の1歳魚が主体で、4～6月から被鱗体長7～12cm前後の0歳魚が漁獲対象となるでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる2011年級群(明け1歳魚)の資源水準は、2011年級群が漁獲主体となった2011年4～12月のまき網漁獲量が前年を大きく上回ったことから(前年比18246%)、2010年級群(前年1歳魚)を上回ると考えられます。

また、4～6月の漁獲主体となる2012年級群(明け0歳魚)の来遊量については、現段階では不明ですが、2010年級群が卓越年級群であったことや、2011年級群については前述のとおり、好漁であったことから、2012年級群の来遊も期待できると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は依然として低水準ですが、前年を上回ると予測します。

■カタクチイワシ(成魚)

□2011年8～12月の漁況経過

2011年8～12月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は、8月に359.1トン、9月に216.5トン、10月に205.9トン、11月に5.9トン、12月7.4トンの計794.6トンでした。前年比119%、平年比100%と、前年を上回り、平年並みの漁となりました。漁獲の主体は、被鱗体長8～12cm前後の1歳魚(2010年級群)と被鱗体長8cm以下の当歳魚(2011年級群)が混じりました。

近隣海域でもいずれも前年を上回る漁でした。

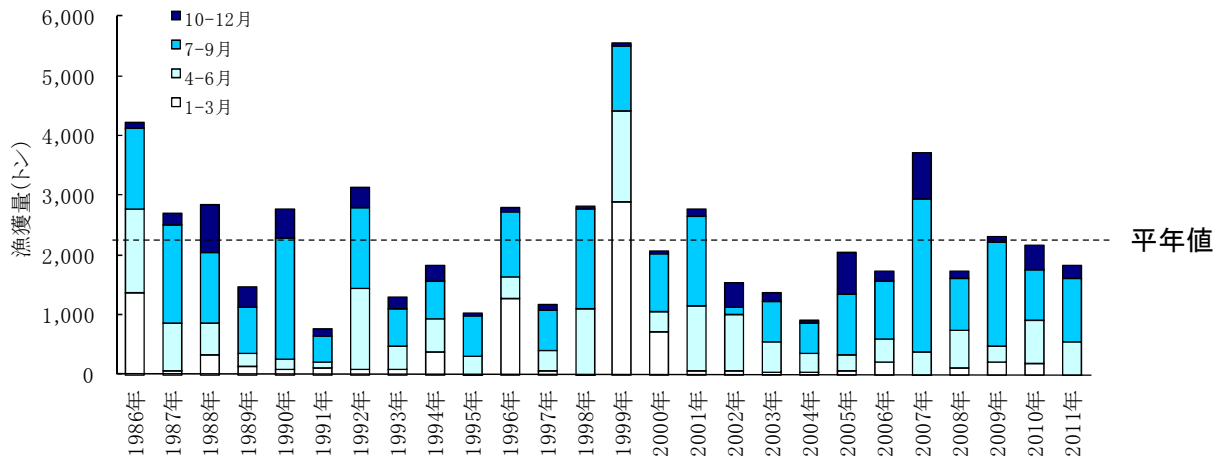


図6 カタクチイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成24年1～8月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

1～5月は7～12cm前後の1歳魚が主体で、6月以降は6cm前後の0歳魚が1歳魚に混じるでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる2011年級群(明け1歳魚)の資源水準は、2011年級群の漁獲がみられた6月から12月までの本県海域におけるまき網において漁獲量が前年並み(98%)であったこと、また、房総海域以北の漁況が低調であったことから、日向灘から土佐湾にかけての大型個体の来遊が期待できないことため、来遊量は前年並みと予測します。なお、2012年級群(明け0歳魚)の来遊水準については、現段階で予測根拠となる情報が得られていないため、予測は困難です。

■ウルメイワシ

□2011年8～12月の漁況経過

2011年8～12月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は、8月に484.7トン、9月に658.8トン、10月は914.9トン、11月に387.4トン、12月に776.9トンの計3,221.7トンでした。前年比633%、平年比789%と、前年と平年を上回る好漁となりました。漁獲の主体は9～15cmの0歳魚(2011年級群)でした。

近隣海域ではいずれも前年を上回る漁でした。

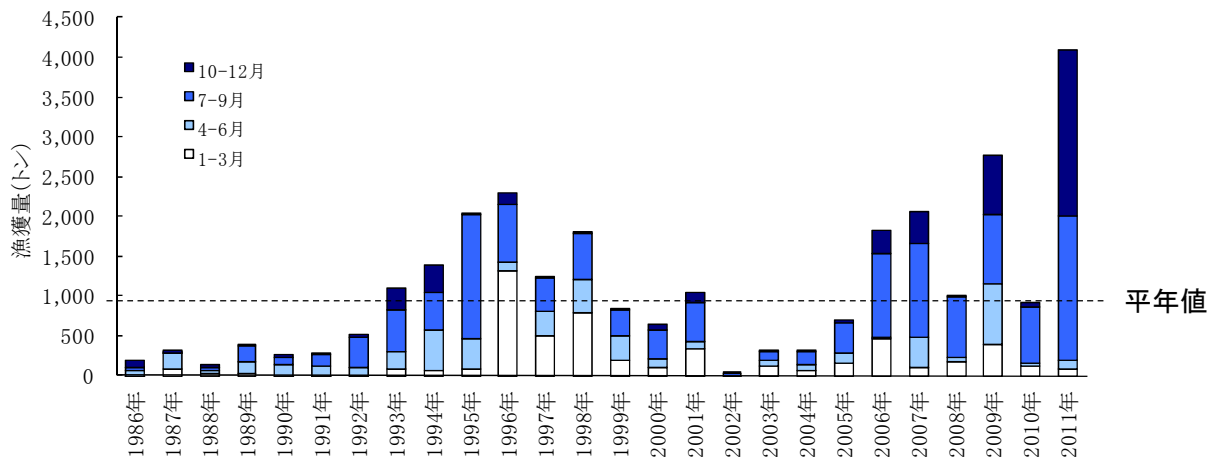


図7 ウルメイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成24年1～8月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長、漁期、漁場:

1～3月は被鱗体長20cm前後の1歳魚が主体で、4～6月は被鱗体長5～12cmの0歳魚が漁獲対象となるでしょう。

【説明】

1～3月に漁獲の主体となる2011年級群(明け1歳魚)の資源水準は、2011年級群が漁獲の主体だった2011年4～12月のまき網漁獲量が前年を大きく上回ったこと(前年比504%)、近隣海域においてもいずれも前年を上回る漁であったことから、2010年級群(前年1歳魚)の資源量を上回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を上回ると予測します。なお、2012年級群(明け0歳魚)の来遊水準については、現段階で予測根拠となる情報が得られていないため、予測は困難です。

■マアジ

□2011年4～7月の漁況経過

2011年8～12月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は、8月に27.4トン、9月に47.8トン、10月に512.1トン、11月に191.9トン、12月103.8トンの計883.1トンでした。前年比497%、平年比59%と、前年を上回り、平年下回る漁となりました。漁獲の主体は尾叉長^(用語解説④)11～15cm前後の0歳魚(2011年級群)でした。

近隣海域でもいずれも前年を上回る漁でした。

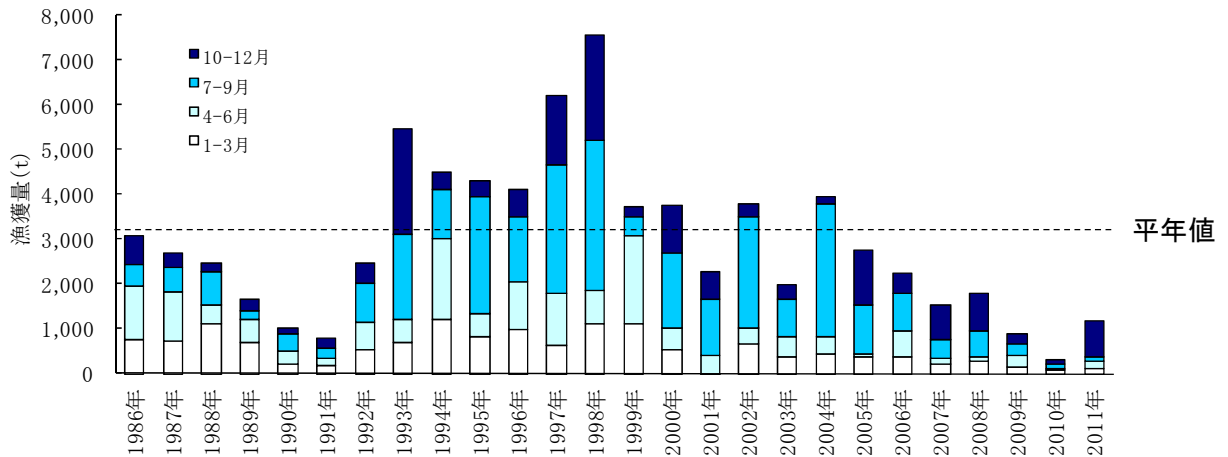


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成24年1～8月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

15～20cm前後の1歳魚が漁獲の主体で、2歳魚以上(20cm以上)が混じる。5月以降に0歳魚が混じるでしょう。

【説明】

1～6月の漁獲主体となる2011年級群(明け1歳魚)の資源水準は、2011年級群が漁獲の主体だった2011年8～12月のまき網漁獲量が前年を上回ったこと(前年比497%)から、前年1歳魚(2010年級群)の資源量を上回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を上回る程度と予測します。なお、2012年級群(明け0歳魚)の来遊水準については、現段階で予測根拠となる情報が得られていないため、予測は困難です。

■サバ類

□2011年8～12月の漁況経過

2011年8～12月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は、8月に19.1トン、9月に46.1トン、10月に307.6トン、11月に25.1トン、12月30.8トンの計428.7トンでした。前年比16%、平年比16%と、前年と平年を下回る漁となりました。漁獲の主体について、期間中の調査で判別ができた個体のうち、78%がマサバで22%がゴマサバでした。

近隣海域は、宮崎県(まき網)と高知県(多釣釣・立縄)は前年を下回る漁、高知県(まき網・定置網)、愛媛県(まき網)では前年並みの漁でした。なお、主体はいずれもゴマサバでした。

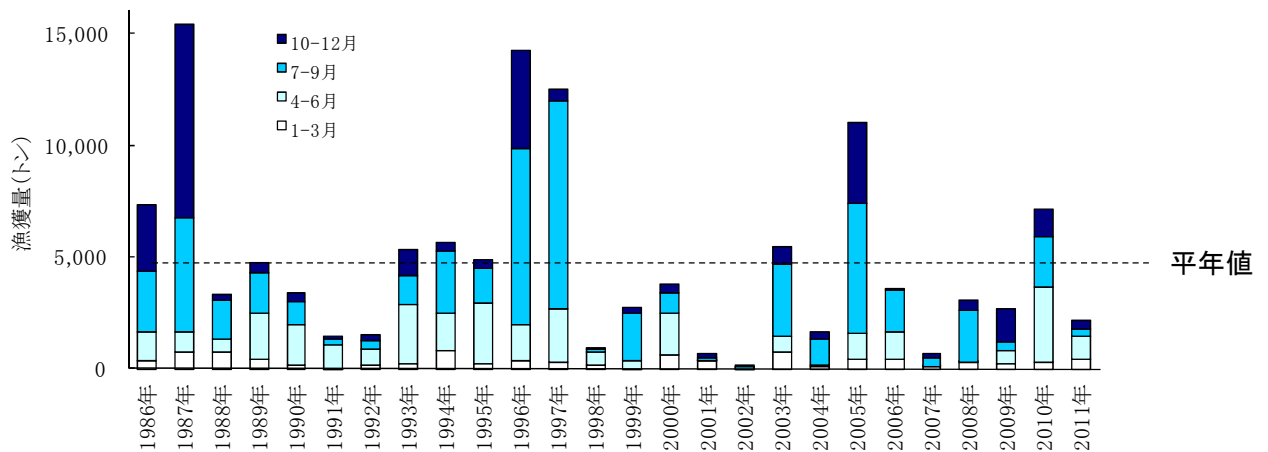


図9 サバ類 (マサバ・ゴマサバ) のまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成24年1～8月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

1～3月はゴマサバ1歳魚主体に、2歳魚以上の大型のゴマサバが混じる。4月以降は1～2歳魚の他、内湾域で0歳魚が加わるでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる2011年級群(1歳魚)の漁況経過をみると、1～2歳魚が漁獲主体となった2011年6～9月のまき網漁獲量は前年を下回っていたことから(24%)、予測期間中の来遊水準は前年を下回ると予測します。

なお、近年の調査から、期間中の漁獲の主体はゴマサバですが、現段階で予測根拠となる情報が得られていないため、マサバ、ゴマサバのどちらかが来遊の主体になるかについての予測は困難です。

その他

■予測の根拠および参考資料

・平成23年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2011)

■用語解説

- ①平 年 比 : 1986～2010年までの平年値との比
- ②近隣海域 : ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とする。期間については2011年8月から11月の間。
- ③被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ④尾 叉 長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156